

柏



勅老御伽雙紙中目録

一 男女持年婚事

一

二

二 洛書乃事 二ヶ條

三

三 圓陳乃事 三ヶ條

四

四 同く中の一とてなすたをうれ事 二ヶ條

五

五 異形洛書乃事 四ヶ條

六

六 いろりの強乃事とて紙のひびく事

七

七 杜稗乃定目子の事おほくかくる事



田文庫

即又後中

八 ひろひもの事 七ヶ條

九 なつ屋物あひまの救たすけたる事 二ヶ條

十 四方あちの窓まどと一いっ刀たをて七なな曜あの切き事 二ヶ條

十一 かろか四十八よんじゅうはち枚まいあてあててよよろろよよろろよよろろよよろろよよろろ 二ヶ條

十二 かろかののろろああひひのの事 二ヶ條

十三 智ち考こうののろろびびととのの事 二ヶ條

十四 二につつととひひのの事 二ヶ條

十五 年ねん救きうととききるる事 二ヶ條

十六 ヒノキコひのきことのの事 二ヶ條

十七 三角さんかくより十じゅう又また角かくとの内うちに角かくと急いそぐ事 二ヶ條

十八 又また何なに角かくももとと急いそぐ事 二ヶ條

十九 又また角かくと急いそぐ捷ちやう徑きやうの事 二ヶ條

二十 かかけててとと除のぞけててかかるる事 二ヶ條

廿一 合あ否ひと急いそぐ事 五ヶ條

廿二 尺しゃくちちと急いそぐ事 六ヶ條

廿三 女め子こ二に平へい方ほうの事 二ヶ條

中ちゆう又また成なり事

二

九四 此ぎたー平方の事

九五 曲尺平方の事 三ヶ條

九六 了配用平飯除術の事

勤者神伽雙又紙中目錄終

勤者神伽雙又紙中

一 男女持年婚事

むし何ぐーとうかいひはる人一人の婚とあんのり
 ろうそむおのうさうとさうさうよあうたれのおひこさ
 いそさうおとつれ春の花秋の月のどくつさう
 げささそけしすぞふ七年よとさうーお嬢婚たる
 花のよそやひ又とやあう産くもつらねばらん人けさう
 せごらなうー愛よまことさうさうよらん年の終三すまぞ
 なまをらうあてあるととこそもかの娘とさうさう
 まらんさうはわふはけ女とさうさうと目とよさうさう



申
又
氏
半



申
又
氏
半

のとおろえられぬありけり家の家よきはけり始の親よけりれを
とらてまらぐのこどもとほりてまらぐふれやちありひ
まらけぬとありていとたあらひらまらさまらあはれざり
あはれまらけりまらあらむさういそむげふあまらんや
まらあはれとも年の年どけやけくたげひまらあはれ
まのちまらひあらむさういそまら今まの年とまら
まらまらまたまらぬ女のとあはれぬまらまらまら
あらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
たらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

うくとまらひいひりまら男いといまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

待十六年

答云男四十六歳

女二十三歳

一	五
二	六
三	七
四	八

法曰女子の年数とをまらて倍まら十四とまらまらと男の
年数三十の内まら引のまらまら十六とまらまらまらまら
今の年乃数とまらまら各の年の数とまらまら

二 洛書乃事 二ヶ條

たとい其のよ一より九まで一通り十入りにかざり
あつべやうのりうこのむ一より九まで一通り十入り
法曰ふそてん合せまふ一

二	一	九
三	五	七
四	九	八

めいあふを

二と八と九

二と三

八	一	六
三	五	七
四	九	二

かくのふりあり

あつとさ角

よも縦

よも縦を換うてよみてつ通り十入りあり又二より
十までの時一より十八までありけしよよとのく
増とまふ一

又二より十までの書一通り十入りようがあるあつべやうれ事

術曰ふそてん合せまふ一

一	二	三	四
五	六	七	八
九	十	十一	十二
十三	十四	十五	十六

めいあふを二と十と

五と三と十四と九と八

二と三と十と九と八

二と三と十と九と八

一	二	三	四
五	六	七	八
九	十	十一	十二
十三	十四	十五	十六

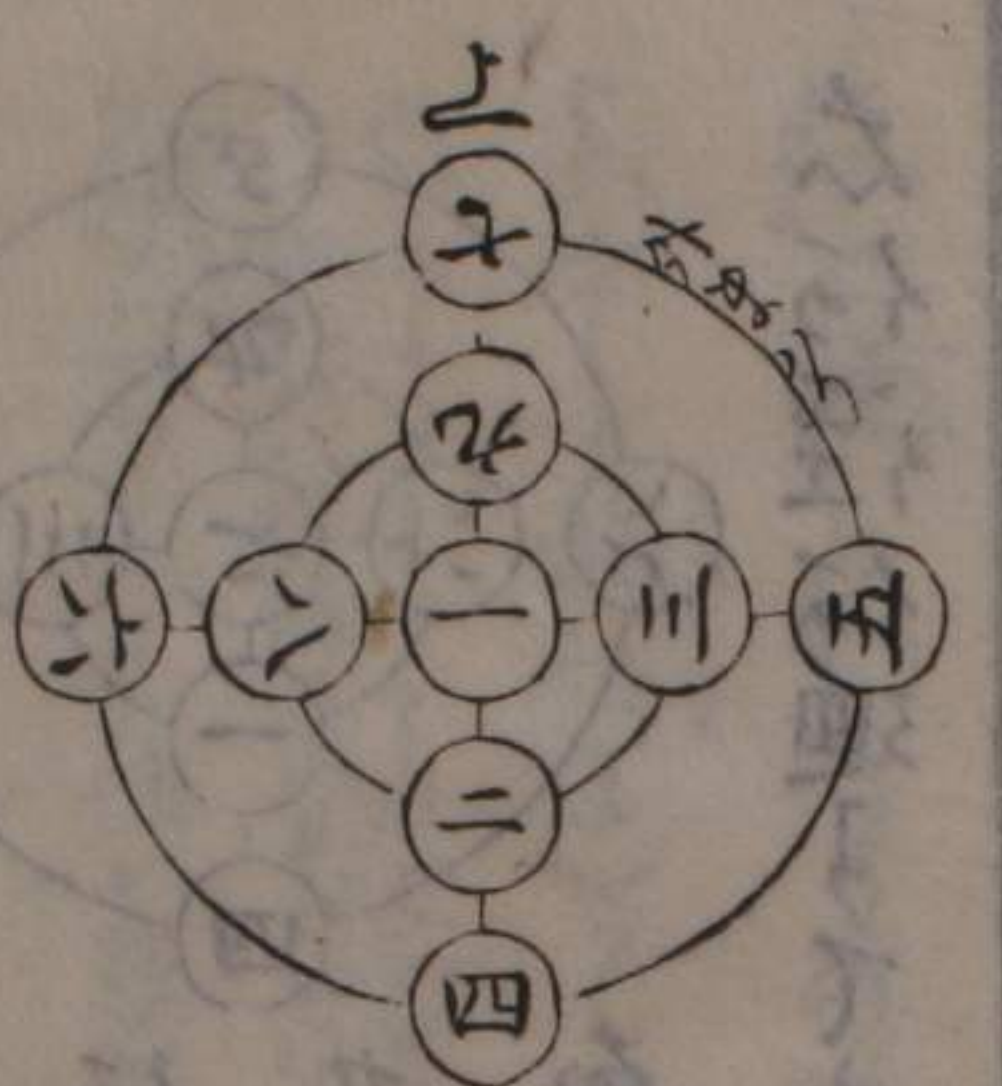
右奇偶方数は三十の故に四行已とい畧之三行ハ
あつべやうのりうこのむ一より九まで一通り十入り
又曰各一通りの数とある術の行數と左とよとさけ合せ
定法一を加へ又行數とつけて二より九まであり

神代文系

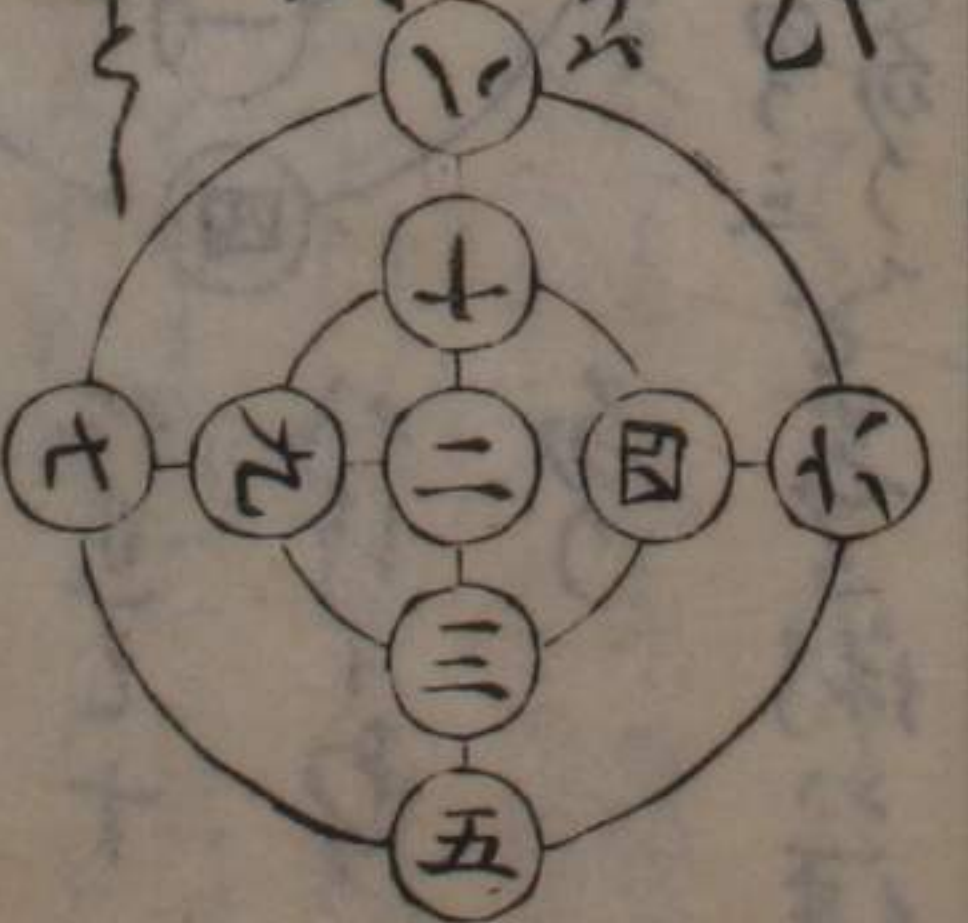
三 圓陳乃事 三ヶ條

たとへは基ふより九まできて二徑二廻何れも九はけり
とぞのちなるべし
但し中の一とさうある所の九あり
一と四とさうある所の九あり
法曰何徑何廻もくも始の一と六中と定め次のことま下に
と終の數
一と九とさうある所の九あり
と一の五とさうある所の九あり
と二の二とさうある所の九あり
と三の三とさうある所の九あり
と四の四とさうある所の九あり
と五の五とさうある所の九あり
と六の六とさうある所の九あり
と七の七とさうある所の九あり
と八の八とさうある所の九あり
と九の九とさうある所の九あり

たのこゝ一つ處り下の娘んはたのこゝ一つは一と五のこゝ
あり娘んあり娘ん合を類もてさうへ

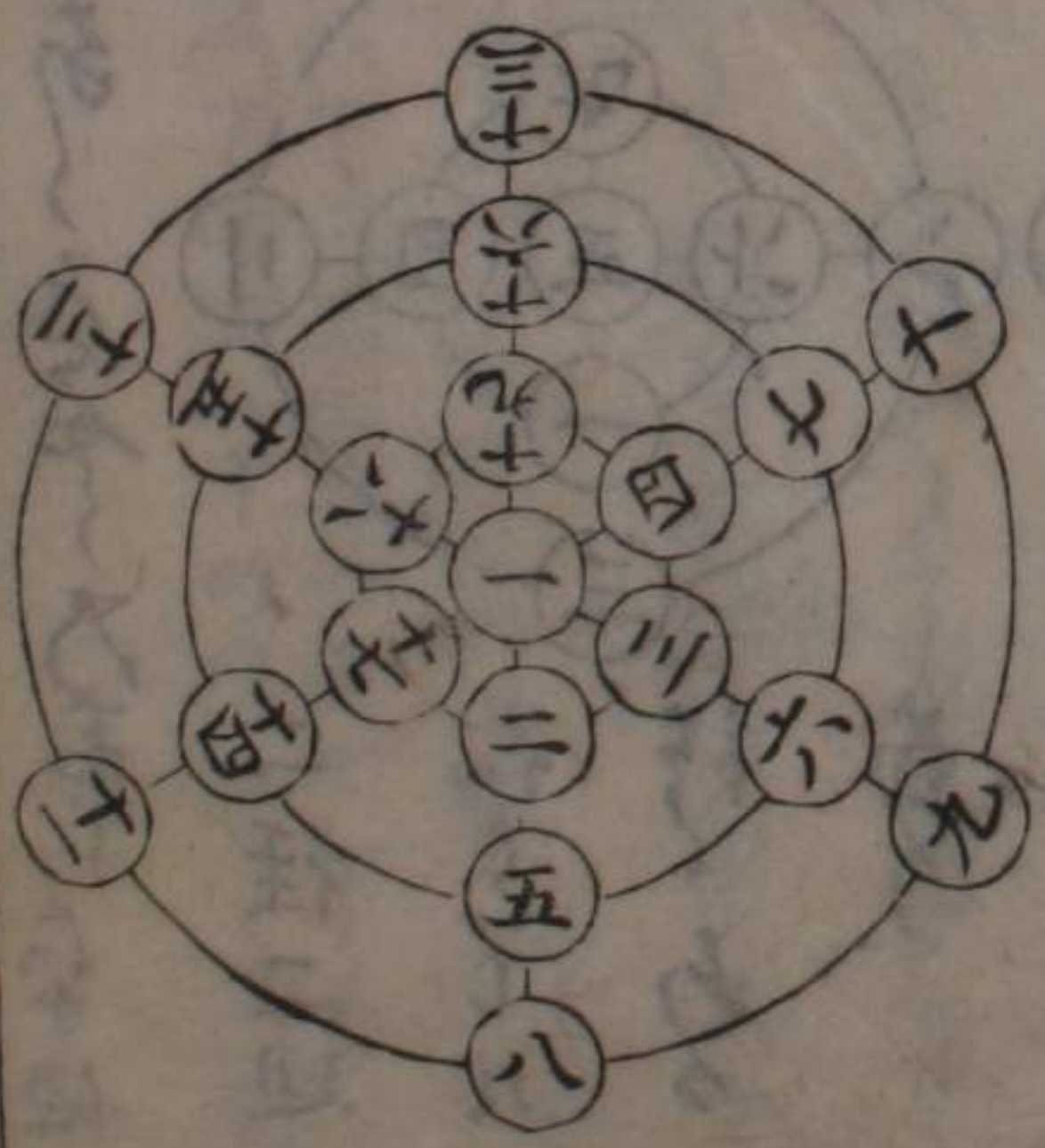


又二より十までの時け
一と各一つ増して廻る
二と加へて何れも九ハ
はくあり娘ん下の娘のこゝ



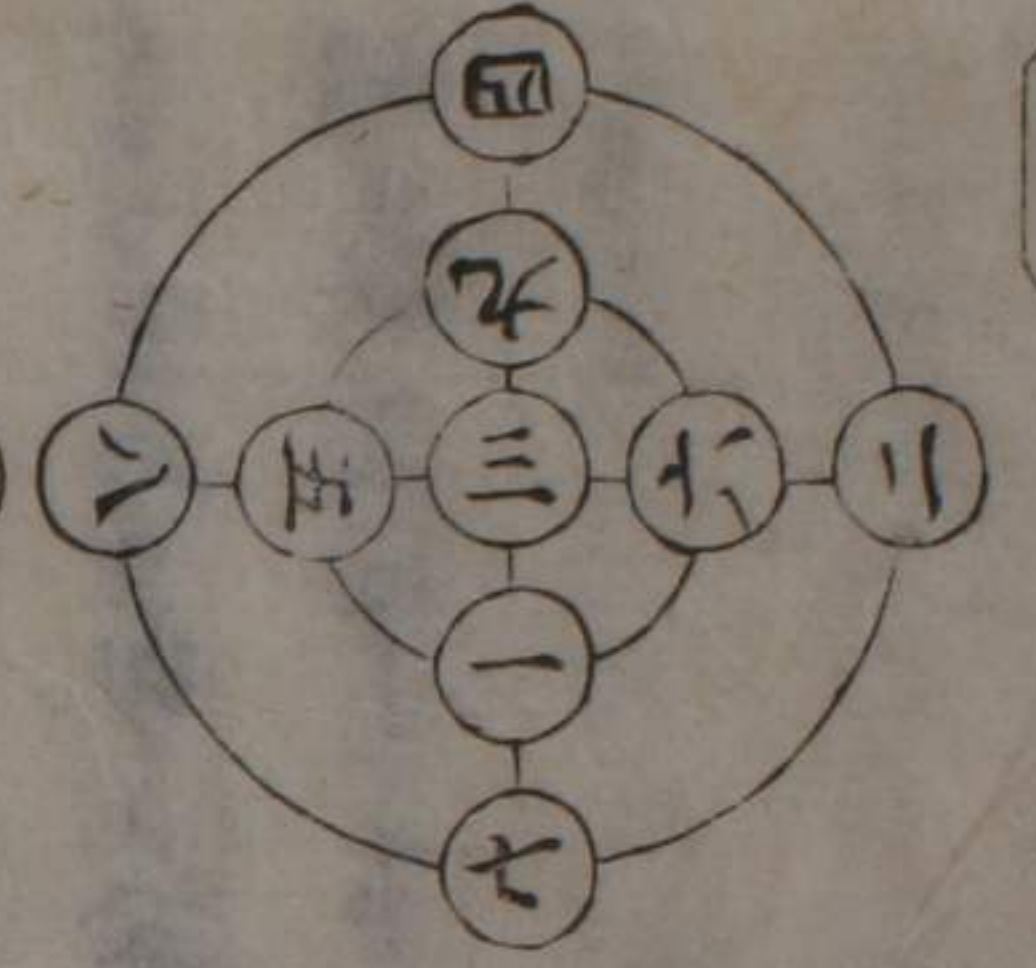
たとへは基ふより九まできて三徑三廻りつゆも九はけり
はくあり娘ん下の娘のこゝ

漸前より下の方乃

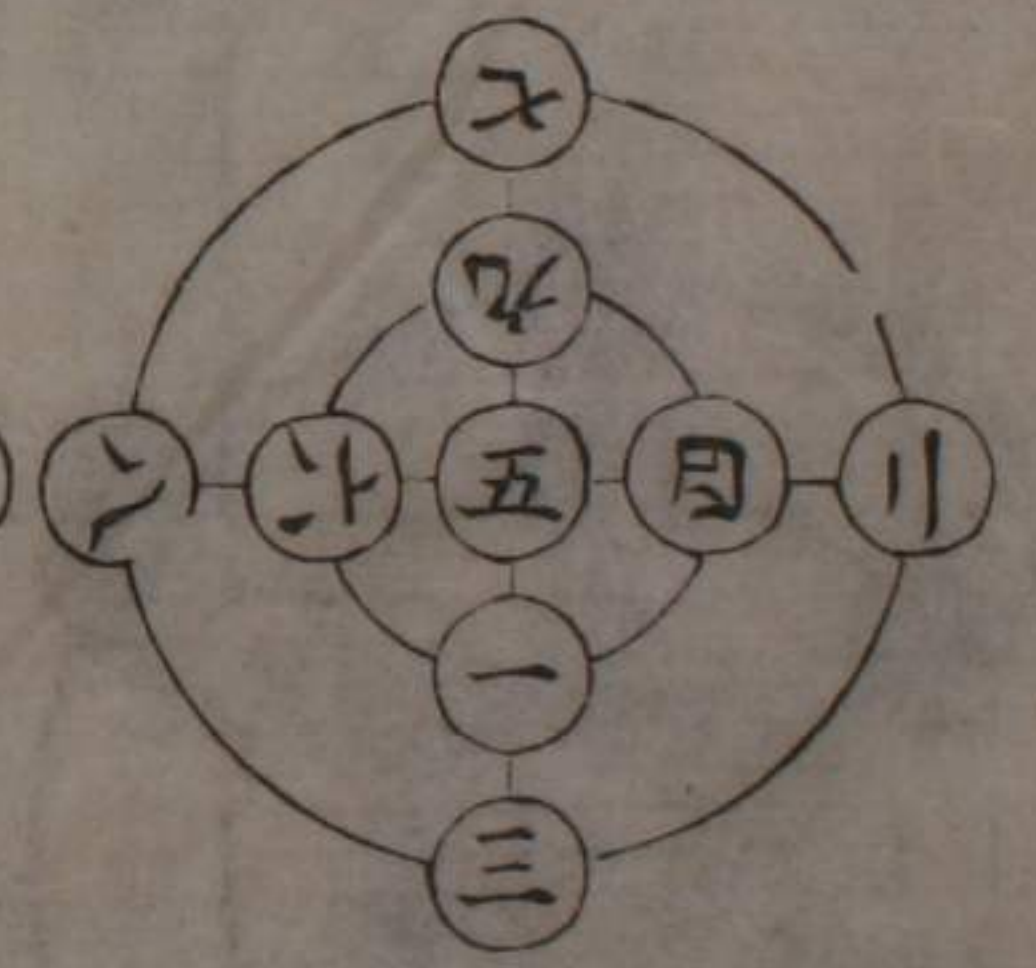


神代文系

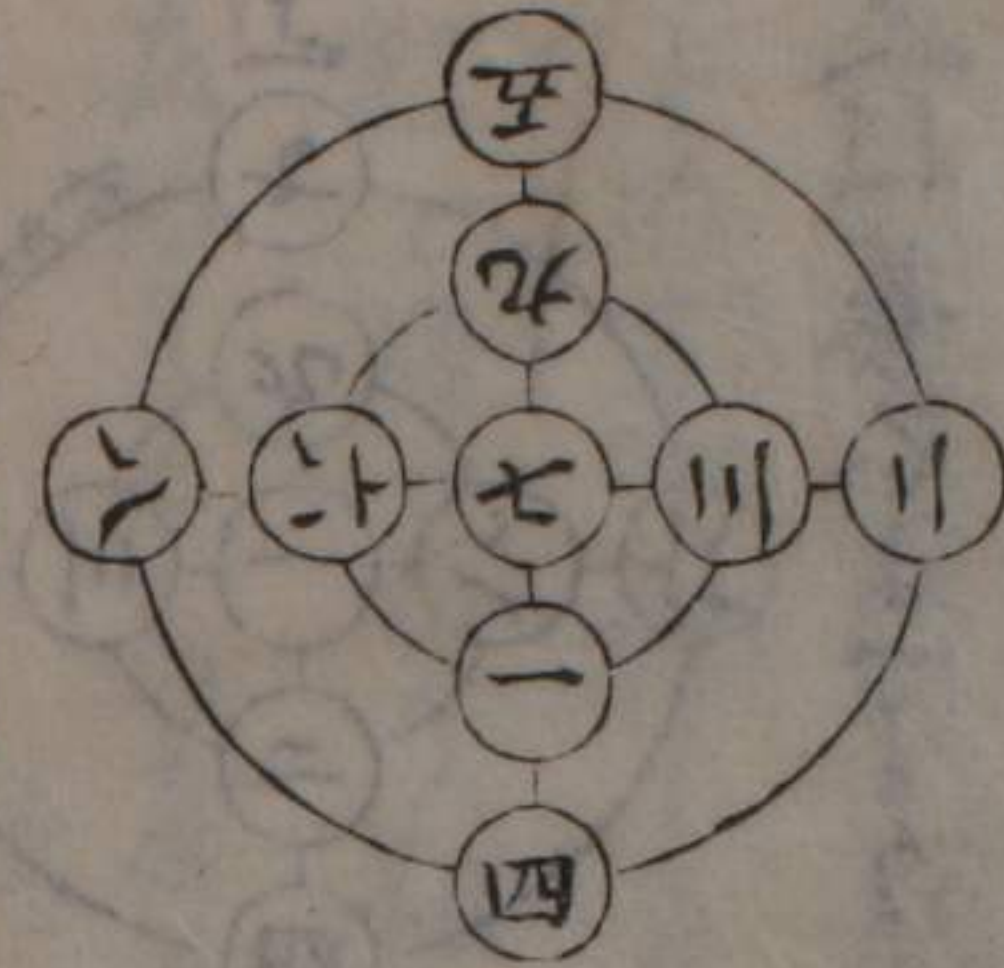
四 一く中の一とくしてあり及なり事二六条



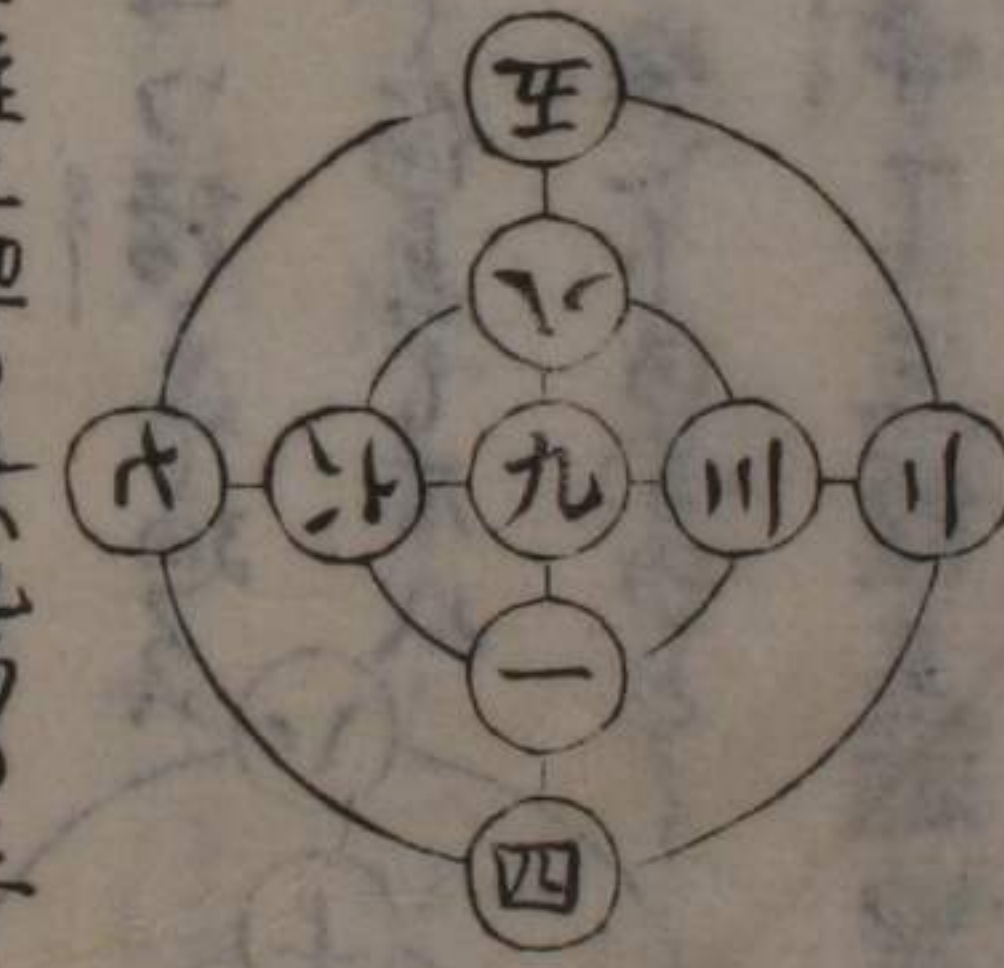
二徑二廻
何れも九
一径あり
あり



二徑二廻
何れも九
一径あり
あり



二徑二廻
何れも十
九径あり
あり



二徑二廻
何れも十
八径あり
あり

六何徑何廻もても不救二徑二廻あり九あり三徑三廻あり十九ありとあり漸ハ徑の

救と倍して廻るの救と受け定法一を加へてきりあり是も

其中心最初とて救二徑たとい一より九あり又二より十九ありの類は之

を以てハ也餘りは是より加へて内定法一を引餘るは救残

りけ二より是れハ類救たとい二徑二廻より一より九あり又三より十三あり

二より九あり又四ありとあり也ハ内定法一を引餘るは救残

は一次に其中心のささめとて救ハ最端一あり一より

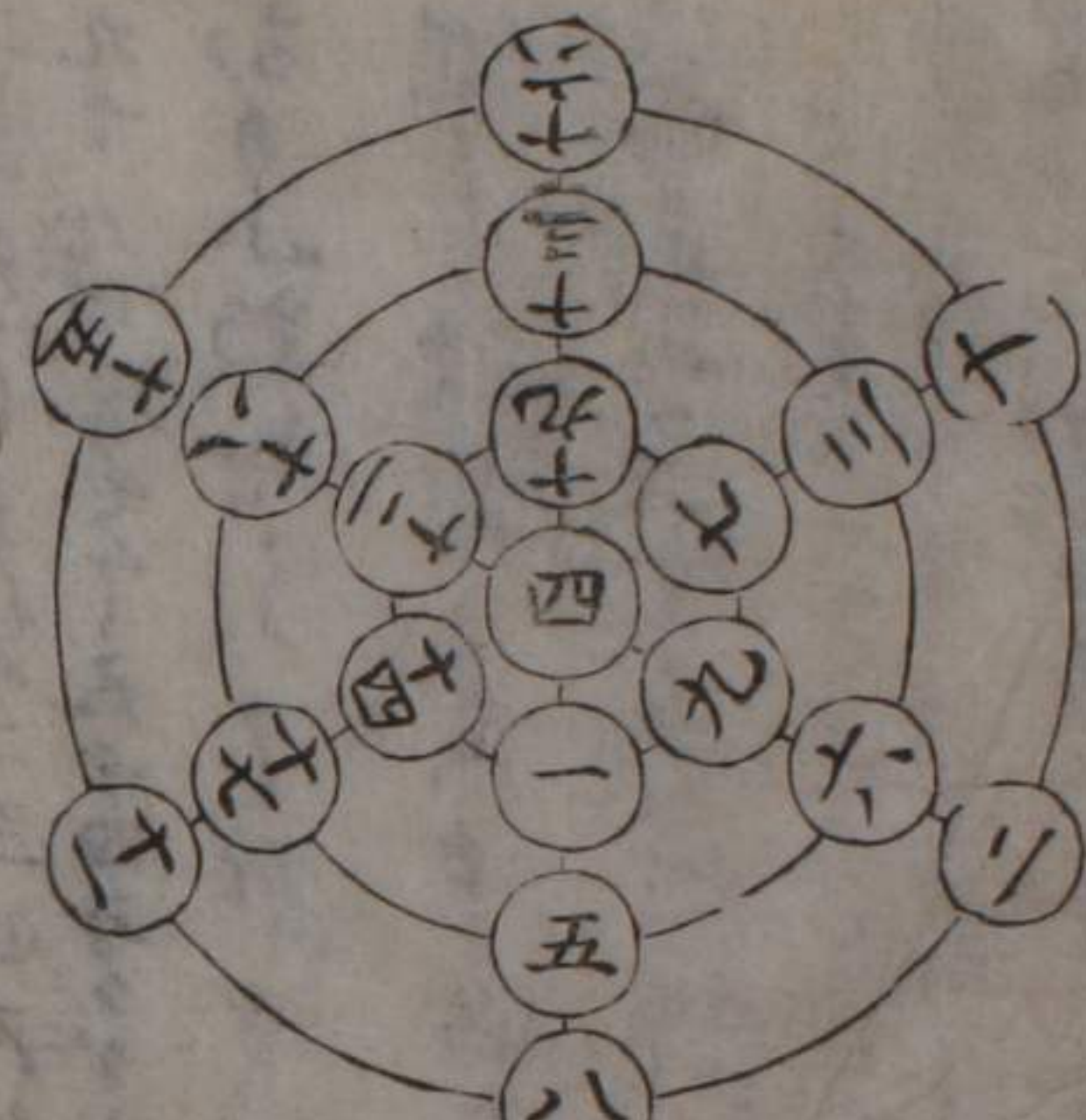
二あり二より徑の救とひくとくわつてある也たとい二徑

一よりあり二徑の救とひくと加へて三五七九の内とてあり

二よりあり二徑の救とひくと加へて四六八十の内とてあり

是より其餘の救ハなくぬとあり

洛書の九宮

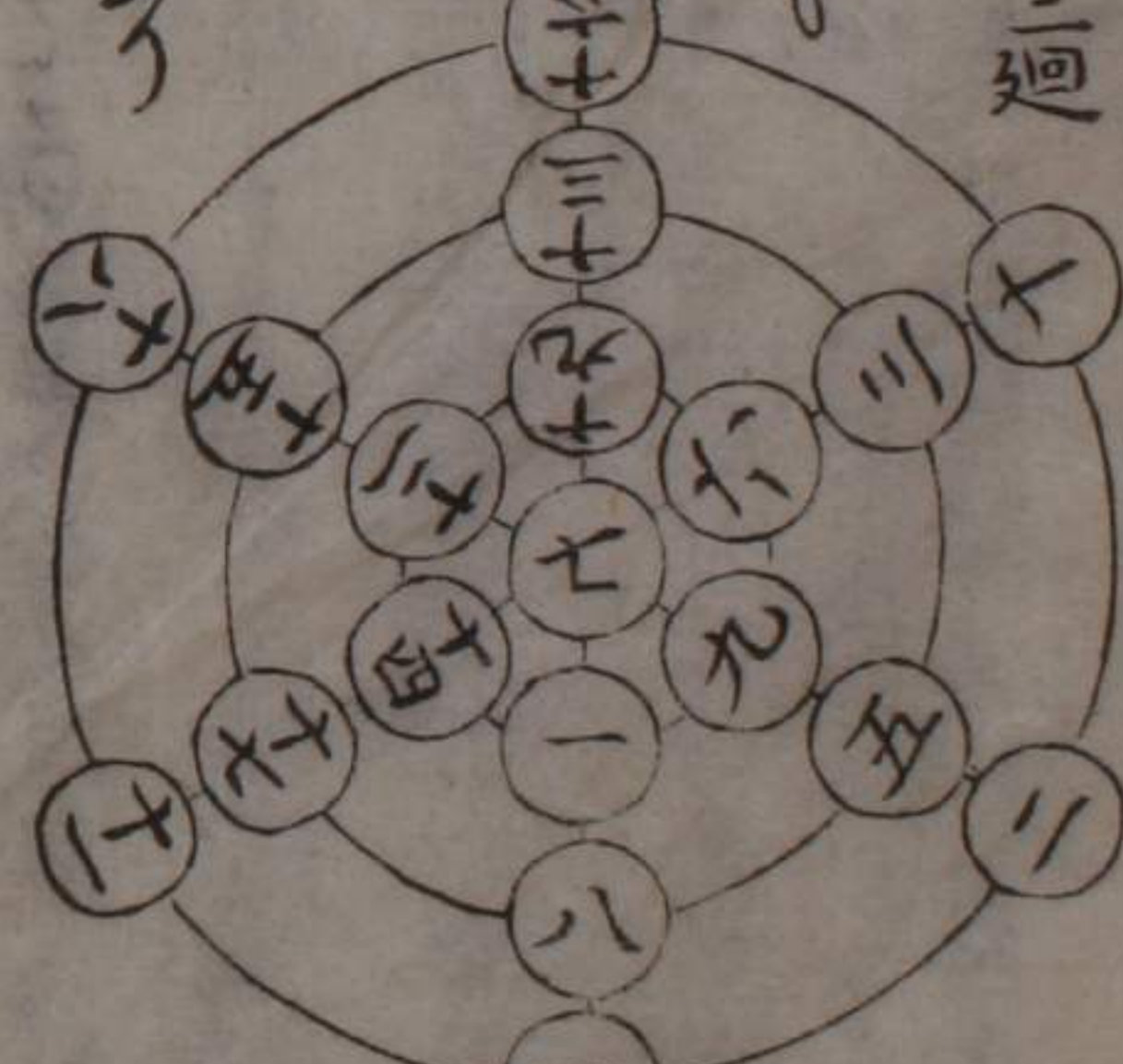


三徑三廻

行也

二径

あるあり



三徑三廻

行也

一径

あるあり

たはつと變化多し一えづくまらば

又 異形洛書の事 四ヶ條

たとはつと三つその數と三廻つと三つ一廻つと三つは
うまらるゝ一やりの事

三	一	二
一	二	三
二	三	一

又一より四までその數と四廻つと三つ一廻つと三つは
あつてつもの事

四	一	一	四
三	二	二	三
二	三	三	二
一	四	四	一

四	一	一	四
二	三	三	二
三	二	二	三
一	四	四	一

三	四	一	二
二	一	四	三
二	一	四	三
三	四	一	二

一又三

〇

例又紙中

二	一	四	三
四	二	三	一
三	三	二	二
一	四	一	四

四	三	二	一
三	一	四	二
二	四	一	三
一	二	三	四

二	一	四	三
四	三	二	一
一	二	三	四
三	四	一	二

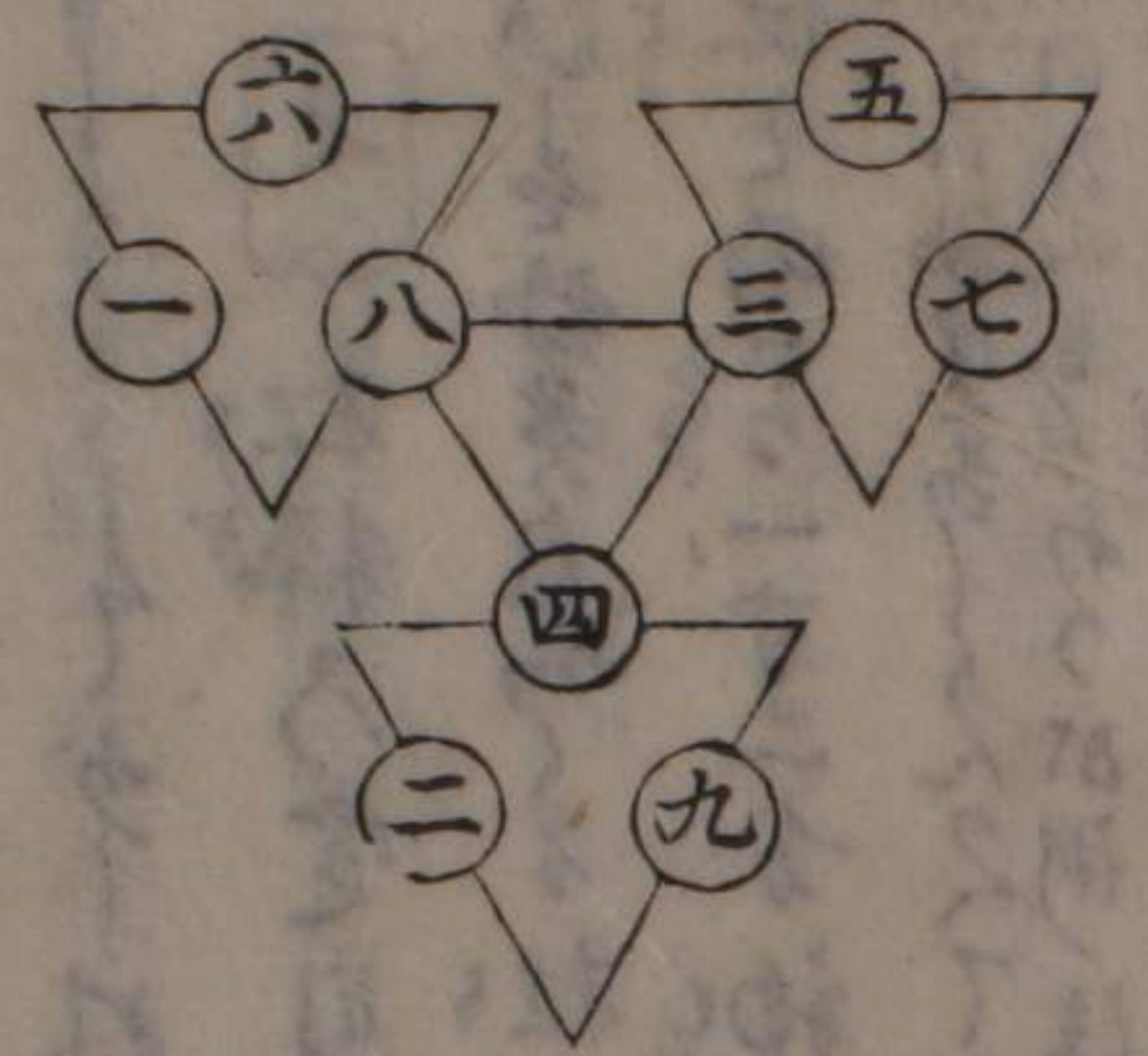
一	二	四	三
三	四	二	一
二	一	三	四
四	三	一	二

一	二	四	三
四	三	一	二
三	四	二	一
二	一	三	四

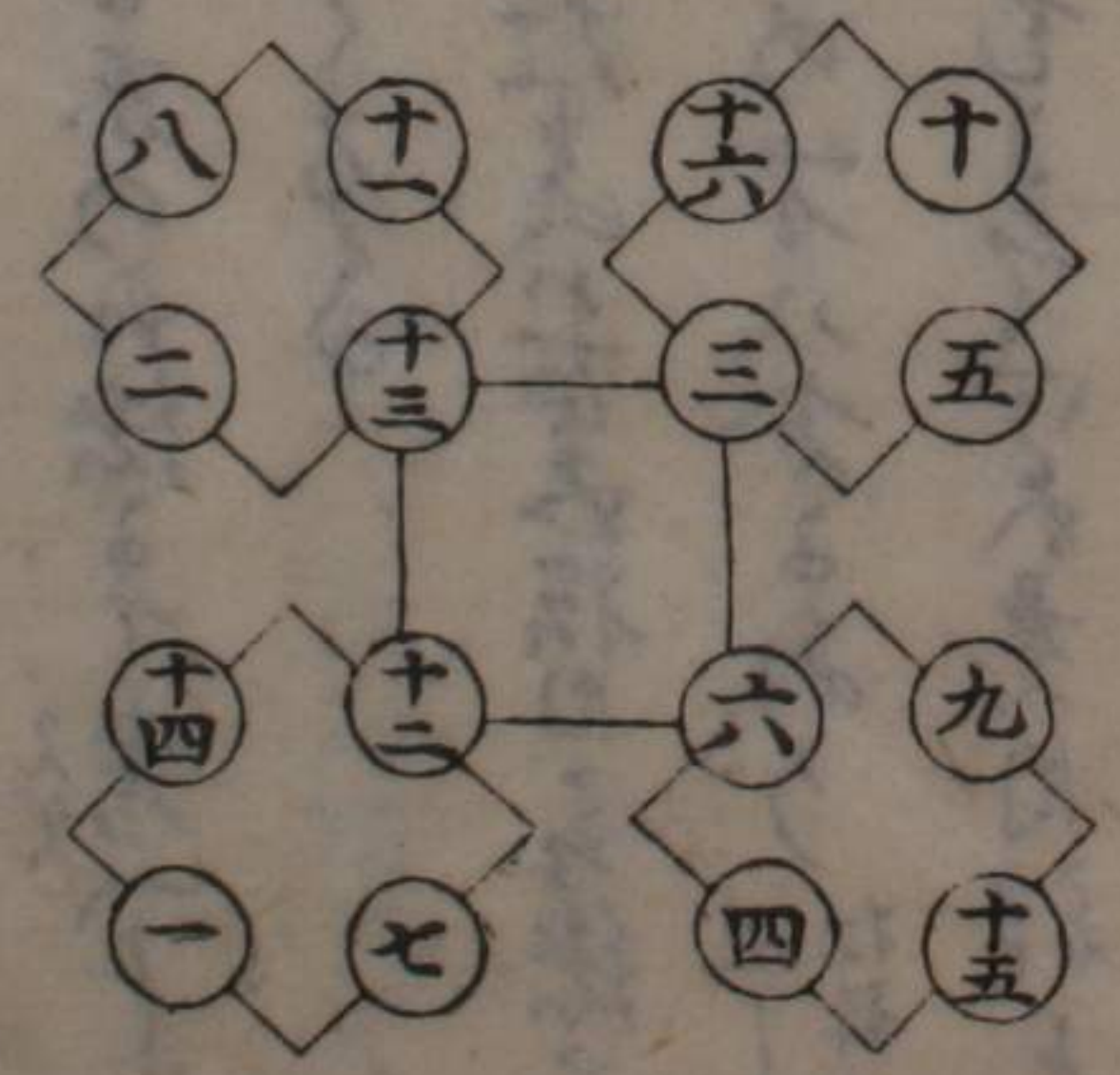
一	三	四	二
二	四	三	一
三	一	二	四
四	二	一	三

右の如く是と三行のなす一をより亦はなり四行
いふ 已ふの变化多し作り考へて一二とある此の

たとばより九までの数と三角にを配てすみつようなる
 あらゆるの事



たとえよう
 十の数の数を
 四角よとて凡
 四つようなる
 あらゆる事



とい とあらの強弱をさげけりてみる事

さうのさそをさうとてそをりりのをさとある末のさう終
 ろう四終りそのすとてそをりり末の方へして

中又成中

まあるふらうむと目との目即録乃おもさあり又中の糸結
より四結まての寸とさうて前目よあてとあるとなれ糸結よて
さうて向目よあてとあるも同やありさうあて中と本の糸結の
すうとくくくくくくくくくす故よ束の糸結よて考へ

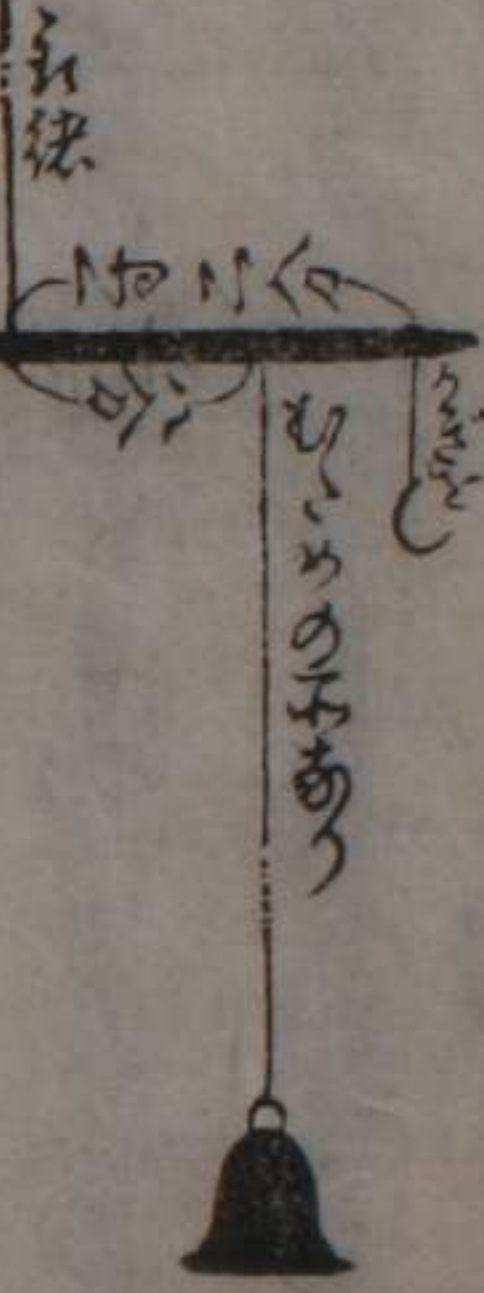
七 扛秤乃定目よ重おほくかくるるや

わらひと秤量自かくら扛秤の寸とさうりなと六百五拾目糸結と
鈎結との尺一寸二分糸星を取結の寸の方八分あり
他一扛秤の寸結あり糸星あり寸とてさうり又糸星 是よて四百五拾目秤と
糸結の寸ありありは測後ふんえとさう 惣度時はん假よめ其目ととと秤量自とてこれの二つと成是小
をりり百五拾目とこれの三百七十五と成と新録の寸とす

此の糸結と糸星との尺八分よ百五拾目とくけて新録三百
七十五とてこれの三分二厘と成是新録の糸星より取結
まての寸あり是とて八分の肉を減して糸四分八厘よ新録
三百七十五とくけて取結と鈎結との尺一寸二分とてこれの
百五拾目と成是成加減の寸と名く板たうりよとさうなる
め其目の肉加減の寸百五拾目を減して四百五拾目と成
かくらとさうあり板何やても新録とてくくくくくくは是
八百目の星よかすは是四百五拾目をくけて四百五拾目と
あり肉加減の寸百五拾目と減して糸四寸五拾目と成是
糸星取結の寸ありありとて加減の寸と加あり

神皇正統記

神皇正統記の御代をいづるにありともいひて

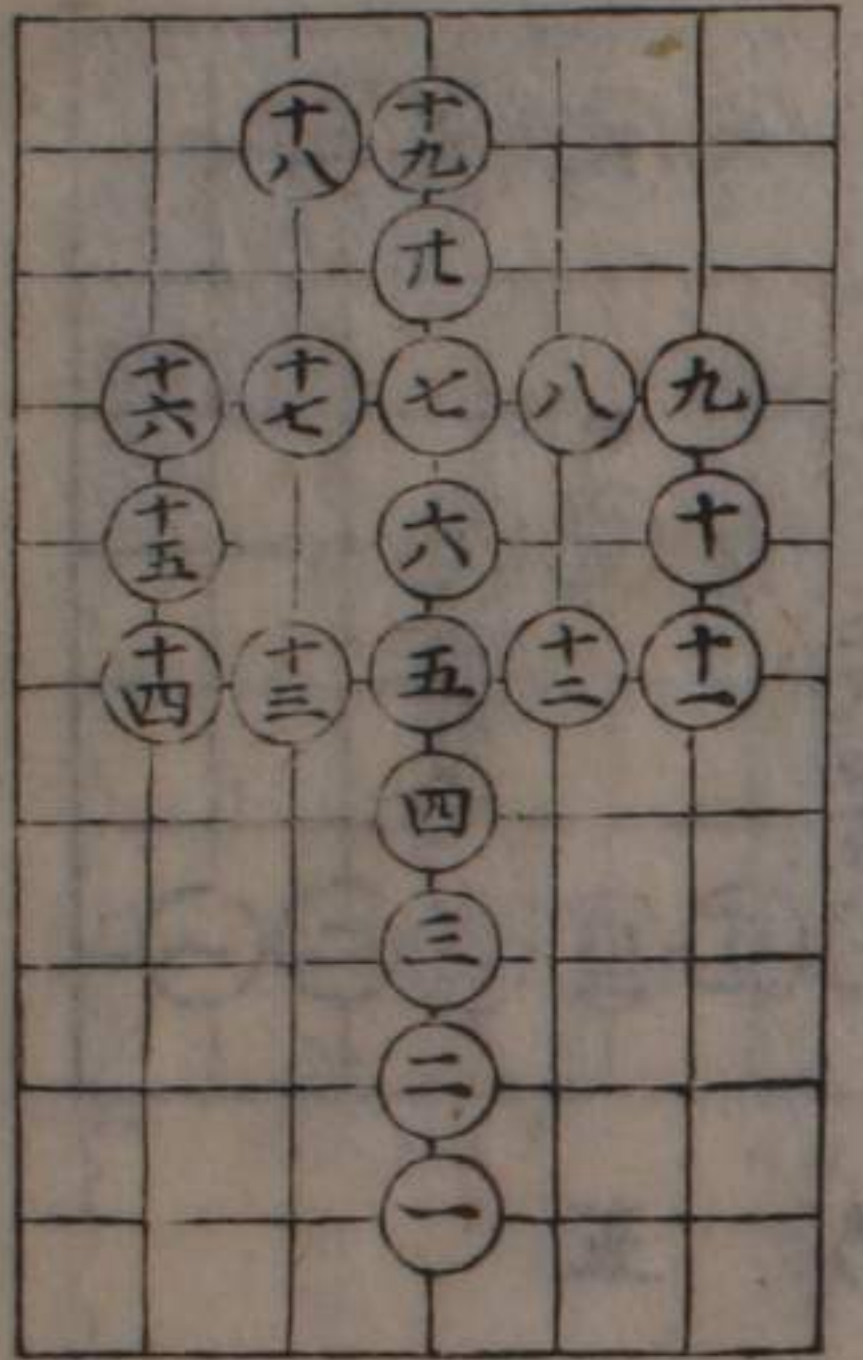


ありあまといふあり又紅綵は
 ようて鉤徳のたは惣ても
 たのさうあり是れは徳の
 風徳たよとを貴目あり
 さらを貴目の星あり又を貴目
 加て部貴目の星ありのり
 きてこれと風徳の星あり
 逆はたあはれを守必衡あり外はわらを不と神皇と
 定めし御すあり

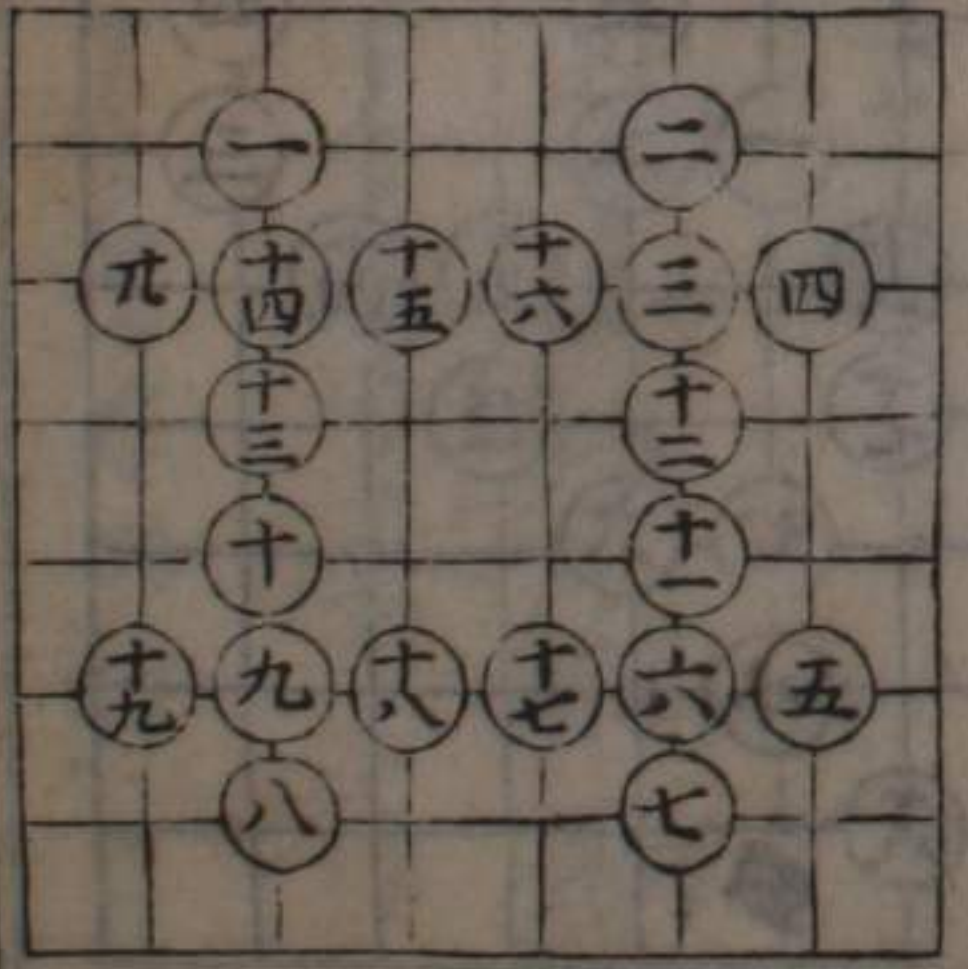
い御統宗といづるといふも加減の事を論ぜず故はむいめ
 云との正中はわらざるものい不合とて御と改めの事

ハ ひろいとの事 七ヶ條

たはは基盤のよまたの事のいひては誠ありて又と御遠
 あり又直は河ともいひてもあり目ありはひろくありと
 御曰たの番付のいひては御遠ありとなくひろく



字の中



筒井



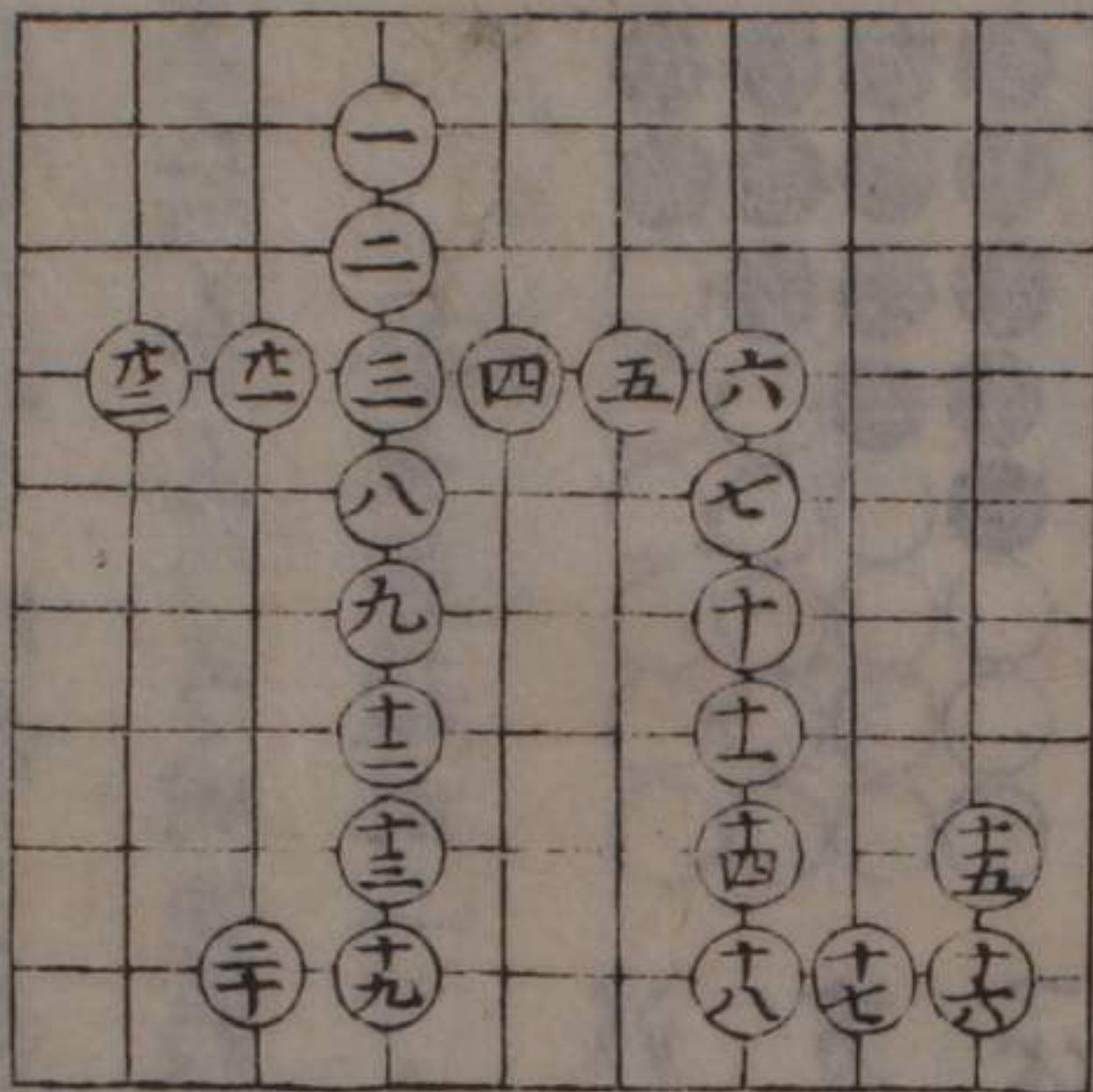
加減

九

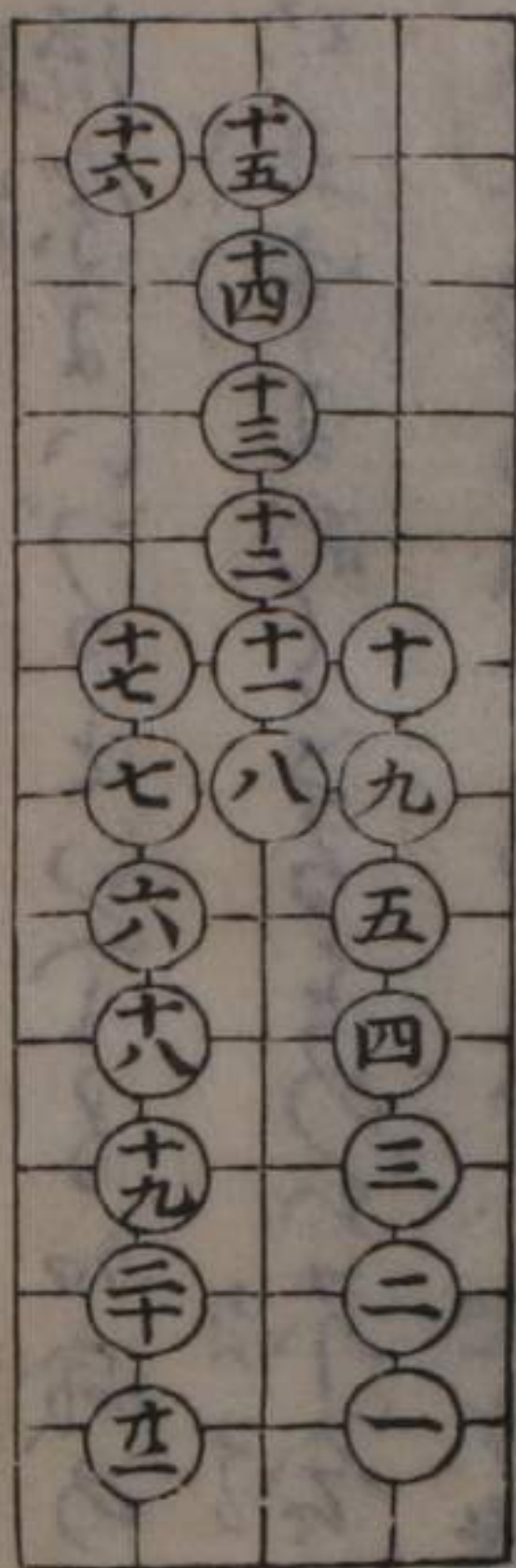
九は魚物の救き

二テ條

たとは白思乃石と名のこく幾は救き
 行狭よたの白とたの思と何一救きよ
 あらゆるよあふてそたの方より思こら



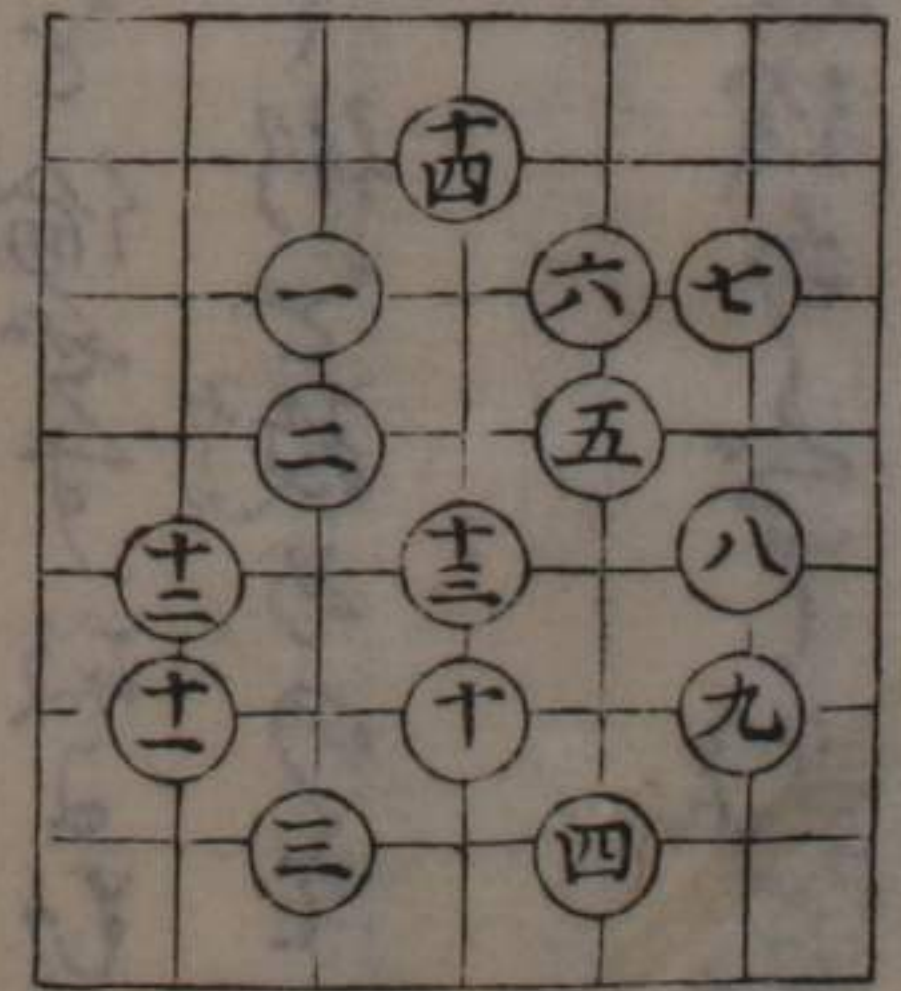
字の九



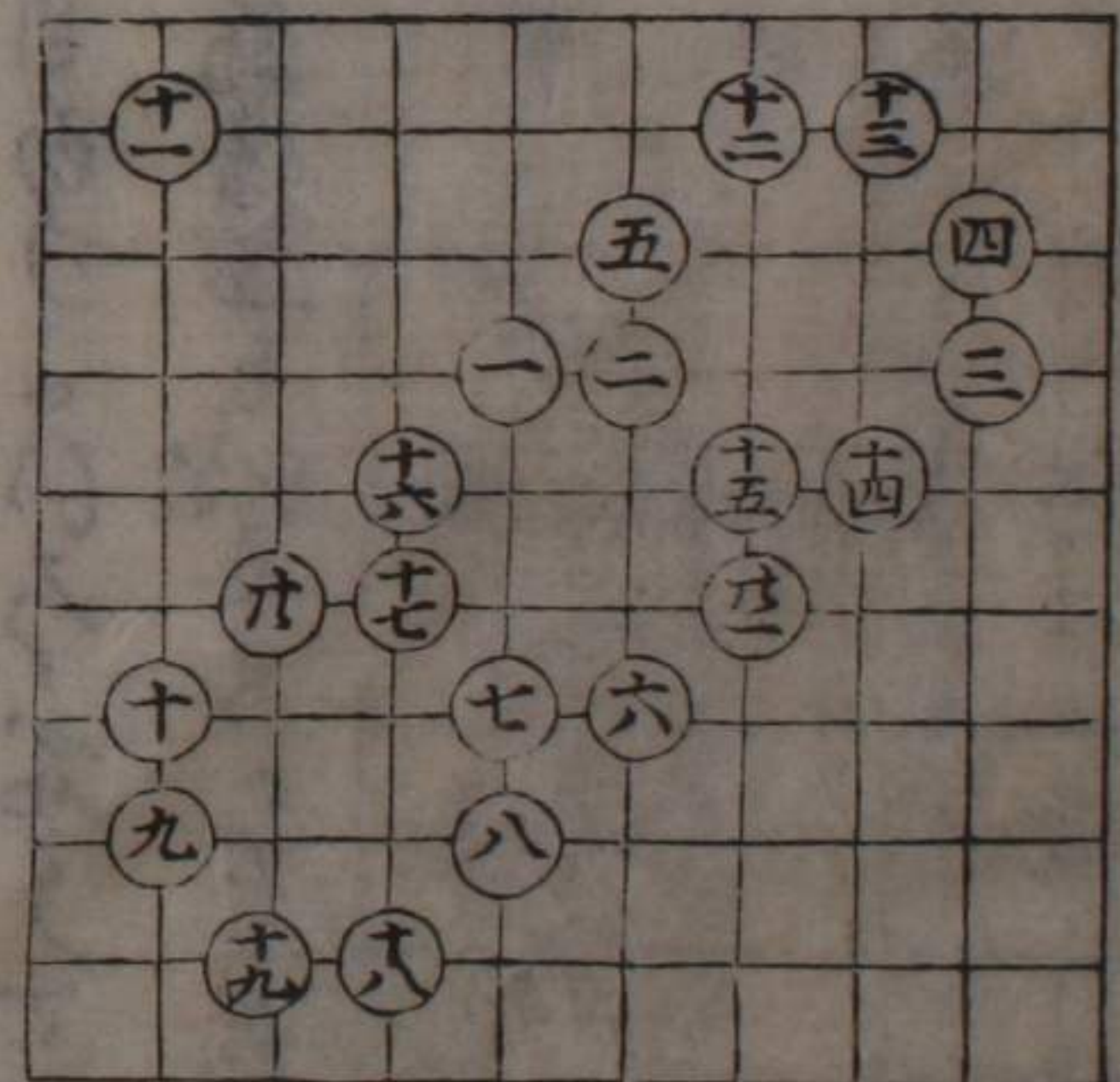
字の五



字の五



角六



角八

伊又紙中

二

和算の秘法

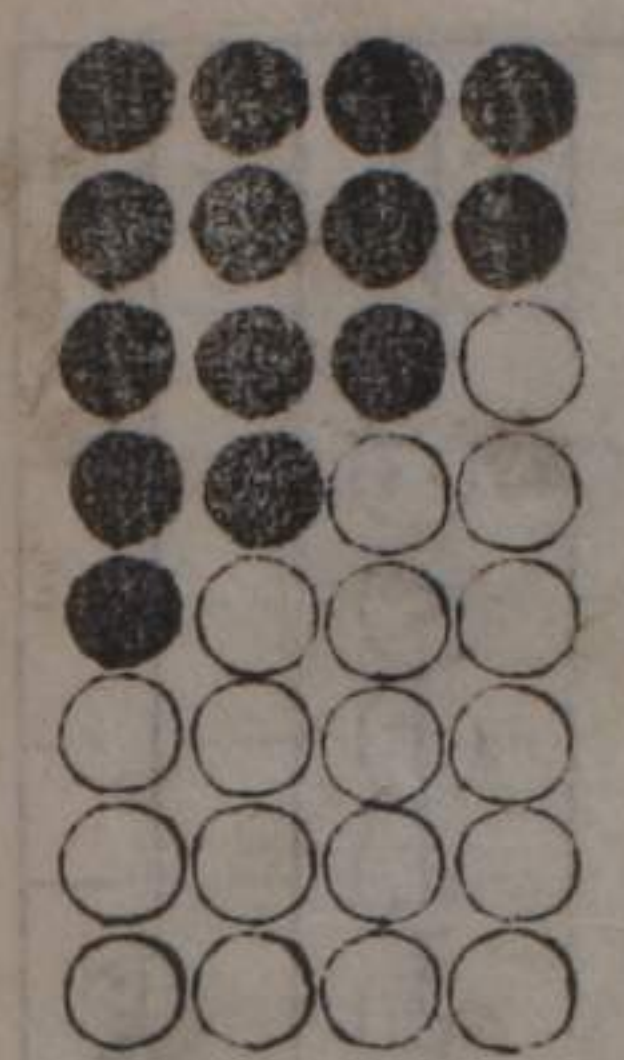
白ありある時惣敷を問

答云惣敷廿八

法曰廣のあま定法一を加してちと敷の内換の二と引砂は廣狭合たるをそりけり惣敷とさる也

又答のこゝしくはありとも片換はあぶてたゞまこつ白あり九のあまの白ありある時惣敷を問

答云惣敷卅二

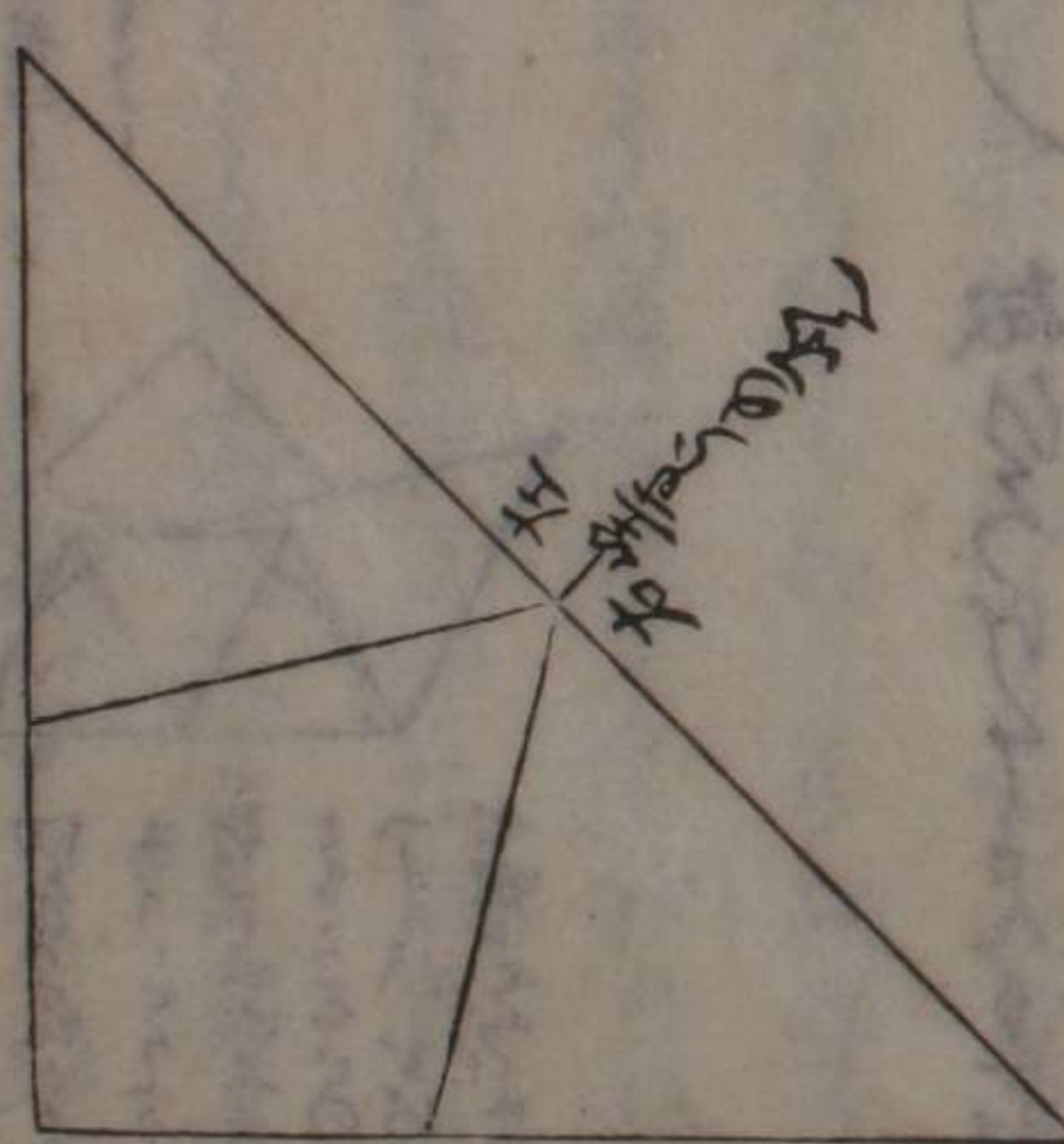
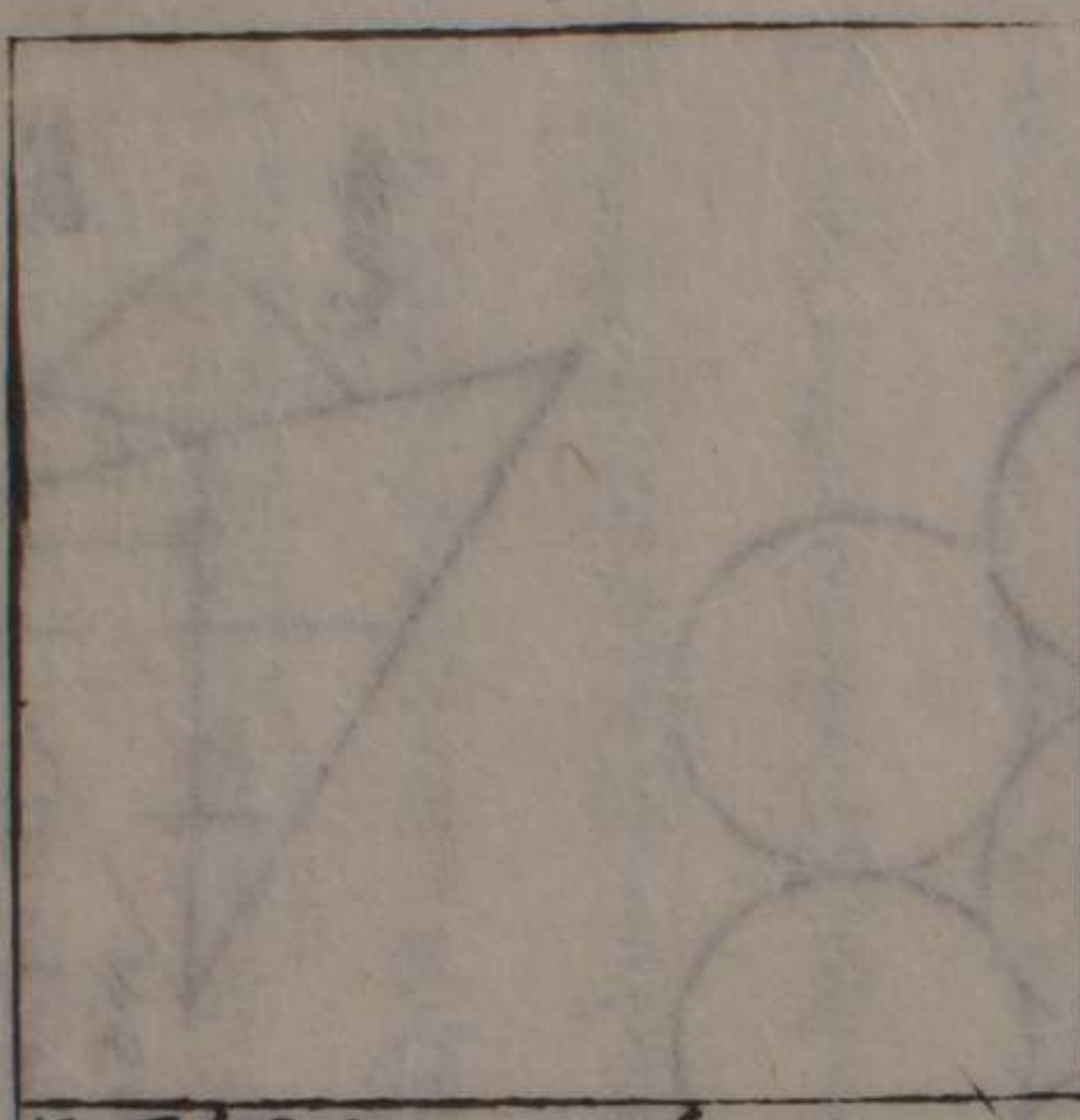


法曰たのまとなのまとしてちと方より少きをとり砂算するは定法一紙加ふの白あまの敷合する八と惣て

惣敷とさる也

十 四方ある時と二刀ありて七曜は切事

此はかどととらて



めはあつと
ちの中
二つの角の
合れとく
三つ等々に
おて次乃
答のこゝ
ちあつと
次のあつと
うてあり
と合せし

和算の秘法

十四

流石又結中

さうもせいでい何そぬときさう

十二 かくこのうゝあひの事 二ヶ條

うゝ早八枚と切まぐてしづく板を何けてんてたさか七あふ
七八九了切と切さうさうてうらあせよせらなうそさささう七
あて砂の何まもあうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
る切と切まぐてうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
六七八九了切と切まぐてかさうてうさうさうさうさうさうさ
をさうさう解られとい方へまらてうらあせよさうさうさうさ
九日あふといあう他了と切まぐて時十はたうさうさうさ
注曰あまられ殺の内何事も九枚引てあられ殺と答とす

又かく十枚さう何まも客よ海へい内まぐりつせよ板を
んと折けてそを付の終さう何枚目といあうとせよおあえ
はよいさうさうい方うさねらるまうあてうけれ砂ささうの
かくこれよあせあぐのせり或ハ懐中或うへはまてさあれ
見さう板よかのうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
中一枚より次身よ一枚つ逆さうさねうさあさ海へたられ
殺より二三枚も甲殺とおあうさうさうさうさうさうさうさ
見え板てそ砂うたのれゆ一のせり板家の眼あへたのよ
うさうさうの一枚をたのよいりてあてれさうあせあうさう
いあうさう方ふ付の終をさ方を是の何枚めとすさうさう殺

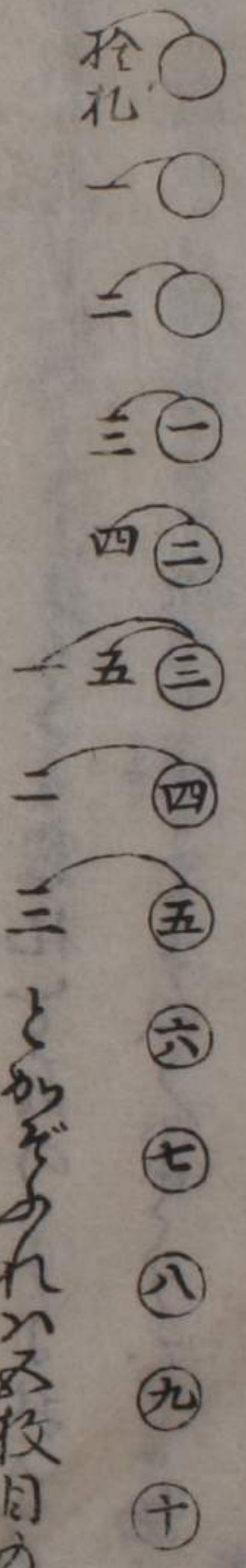
甲の又殺

一六

海防新編

十一

より三枚めよあ〜を〜と〜して板書の分付の終り何枚あ
 ありと只今同時た〜の枚目と答ふと時神お〜たるあ〜の
 のけて〜三三三と〜と〜してけり枚めより三枚めをあげて
 するもた〜三枚お〜く〜時か〜〜たの〜



た〜の〜時二枚お〜た〜三枚お〜た〜三枚めと〜あり

十三 答答のあ〜ひ〜の事

あ〜の〜二〜三〜四〜五〜六〜七〜八〜九〜十〜の
 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十

お〜の〜と〜

法日四ぬと〜七八、一二と〜四五六と〜七九十、

ありて一二三四、五、六、七、八、九、十、の〜あり

十四 二つとひの事

た〜の〜の〜基る十ある〜の〜二つは〜と〜ありび
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、と〜あり
 法日先四と〜一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、と〜あり
 十と〜七、八、九、十、と〜あり

- ①④
- ③⑧
- ⑤②
- ⑦⑩
- ⑨⑥

卯

十一

海防新編

十五 年救を志る事

たとは辛酉より甲午まで 幾年も救を志ると同

答云五十四年より十四年と云

御曰辛酉乃辛を取て辛壬癸甲と甲午の甲ゆて
かきつて四つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
六つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
七つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四と救を年救と志るあり
六つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
七つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
八つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
九つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
十つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
十一つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
十二つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
十三つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
十四つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
十五つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
十六つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
十七つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
十八つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
十九つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
二十つをたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
二十一年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
二十二年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
二十三年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
二十四年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
二十五年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
二十六年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
二十七年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
二十八年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
二十九年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
三十年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
三十一年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
三十二年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
三十三年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
三十四年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
三十五年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
三十六年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
三十七年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
三十八年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
三十九年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四十年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四十一年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四十二年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四十三年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四十四年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四十五年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四十六年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四十七年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四十八年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
四十九年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
五十年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて
五十年をたよ金別と世寅卯辰巳午とかきつて

甲乙丙丁戊己庚とかきつて十とありて
あ一とえぬり別と世寅卯辰巳午とかきつて
たよ金十二つと云らるれたの事一たあを同救
也、三十年より九十年と志る也

十六 ヒノキコとの事 二十條

たとは浅きと其も其の事
かおろえとせりてそれとたよあるとたよあると
一のを申指りて一のを食指りて一のを食指りて
弟一 一 二 三 四 右 四 八 各
一 五 六 七 八 左 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

御新編

但番付の事
其の事

物部又紙中

才 ②⑥ ①⑤ 右
 ④⑧ ③⑦ 左 板もくのれこ 指^かををををを
 ちをををををのこ

才 ⑥⑧ ③④ 右
 ⑤⑦ ①③ 左 ちを板先の人のを^{あやま}のる

御目けまのちのこをなたとをなたつぬるあつは酒
 三交目れたちとをなつてこなをうりまてヒノキコ
 文字をほくるあつを地りやんはんうあよ人のあつはるは
 ち^{あやま}のるこつをこもかみのこ 板才のふよてちよ
 あるとを^{あやま}かみのこあつはるも又才このふよて

ちよつとを^{あやま}のるこあつはるあつはるあつはるあつはる
 キの字は^{あやま}のるなとを自のたちとを^{あやま}のるあつはる
 この方より三眼目とす也又才一よりなよつとを^{あやま}のる
 くのこあつはるちよ又ちよあるとを^{あやま}のるかみの
 こあつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはる
 あつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはる
 あつはるあつはるあつはるあつはるあつはるあつはる
 才三の ⑥⑧ ③④ 右
 うり ⑤⑦ ①③ 左

ヒノキコの文字不用仕積乃事

物部又紙中

物部又紙中

海防又細

十九

たとへは残りも其るもハツなうて先の人をおおるえを
さしてそなたとさうしめ前めこし

才一 一 二 三 四 右 たとへはひふそまあるといふたの
 一 五 六 七 八 左 方よりなうて才二の字のこし

才二 一 三 四 八 右 たとへはひふそまあるといふたの
 一 五 二 六 左 方よりなうて才三の字のこし

才一 一 三 五 七 右 ひとそたとのこしありたとのこし
 二 四 六 八 左 何れそも言ふよさういふてなうすれ
 ひとそとの物終のたは極るあり

たとへはたの方をなうすそなた極る前よりひとれ方をおおる

時をさしやうたはゆりうりてさうてもぬせれあうそん合はし

十七 三角より十五角までの内角の角とさうしめ

角よりさうのこし極るそ人の界と又そま中よりたてまい
界ととむさうそまの界よりたての寸法とさうしめ
よりまこけいのたはの極る界を引時を即るその角形とさうしめ

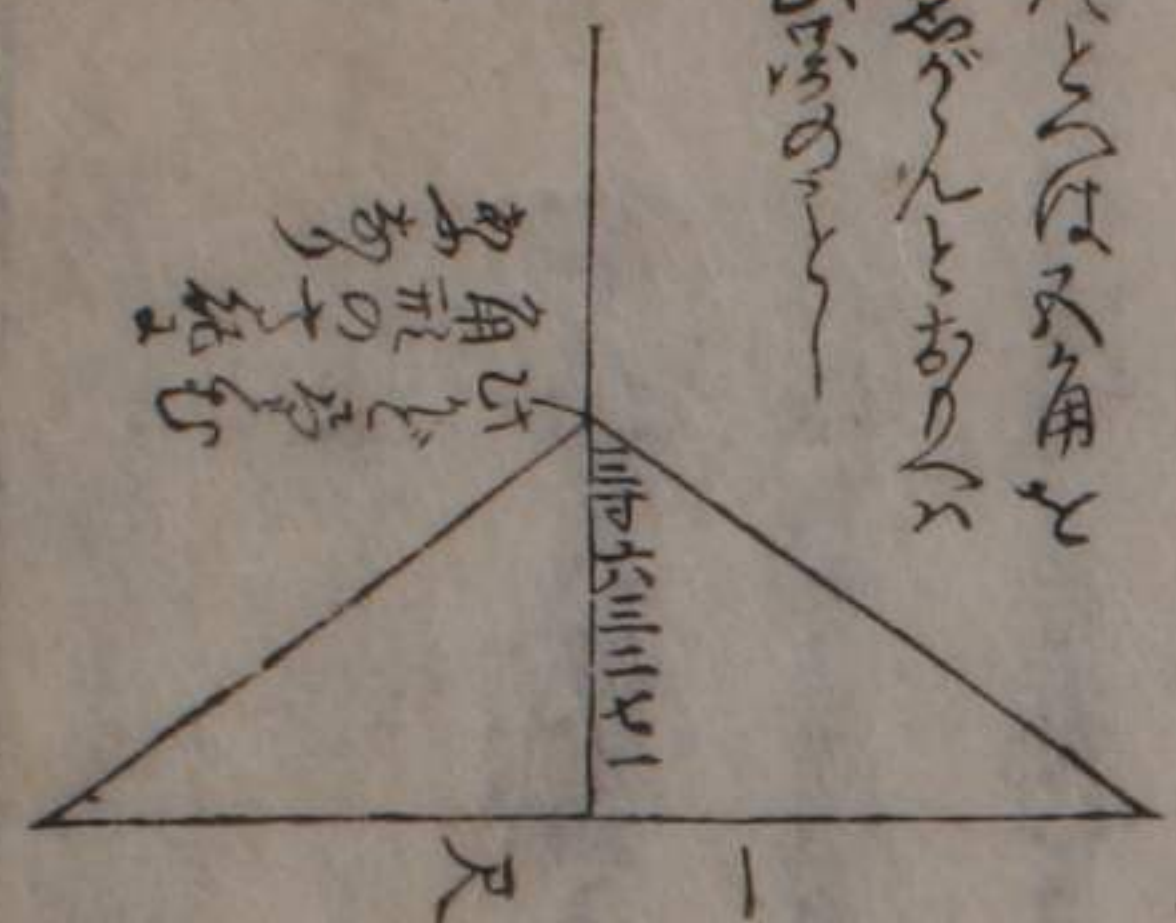
各堅の寸法 三角八寸六六〇二五

四角五寸 五角三寸六三二七一

六角二寸八八六七五 七角二寸四〇七八七

八角二寸〇七一〇六 九角一寸八一九八五

十角一寸六二四五九 十角一寸四六八一三



角の寸法

高さの寸法

河内又紙作

十二角一寸三三九七四

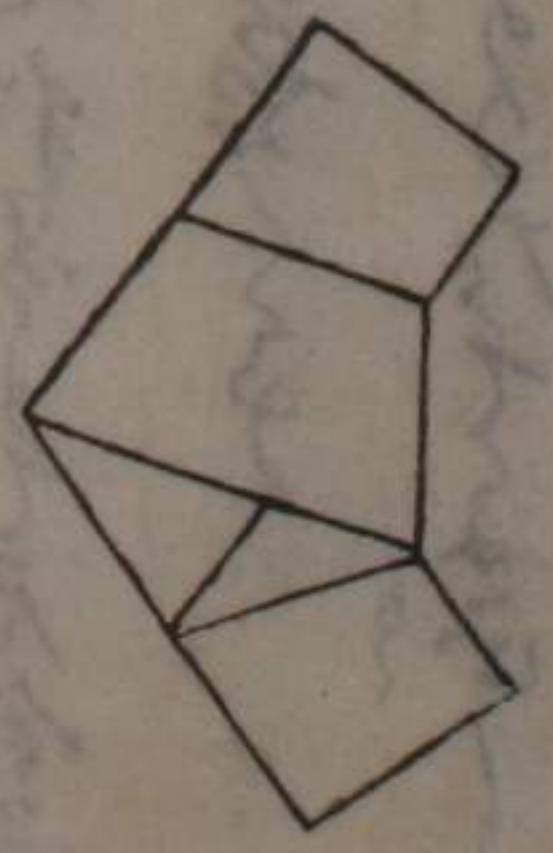
十三角一寸二三二三八

十八 又何角のやまももるの角とさぐく事

たとへば何角ももるを次身は角形と得友
 ともいふのこく丸とさうしてさう角一のその
 角形とさうして割合せりてさう

十九 又何角とさぐく捷徑乃事

法曰たとへば何角のさ配とさぐくと
 おりおつたすまあるを紙とさのこく
 繕ひて支障と切をたつ角又角とさ



二十 かけてさうしてめち算のこ

術曰二つは割友のみぶとさうするあり
 みぶは割友のことさうするありと
 割友のこ二分ぶとさうするあり二分
 重と割友のことさうするあり
 皆是也

或は二十は割友のことさうするあり
 位位の進ま或は二十とさうするあり
 乗除の教きとさうして見合をへり又
 右の術は不拘直と反率とさうするあり

一	五分
二	二分五
四	一分二五
八	〇・六厘二五
十六	〇・三厘一二五
三十二	〇・一厘六二五

最も最幼の二と
 五分とさうするあり又五分
 とさうするあり又五分
 とさうするあり又五分
 とさうするあり又五分

河内又紙作

欲するのいを除んとありの故よりとされれば乗法あり
是と反率といふたは此よりとありといふこと
一よりして三重一二五と倍らば

〔六一〕 合名と知術の事 五ヶ條

たはは強きより重みある指より少くは九なりとて合せて
七なりより重みある指より少くは九なりとて合せて

以合云合

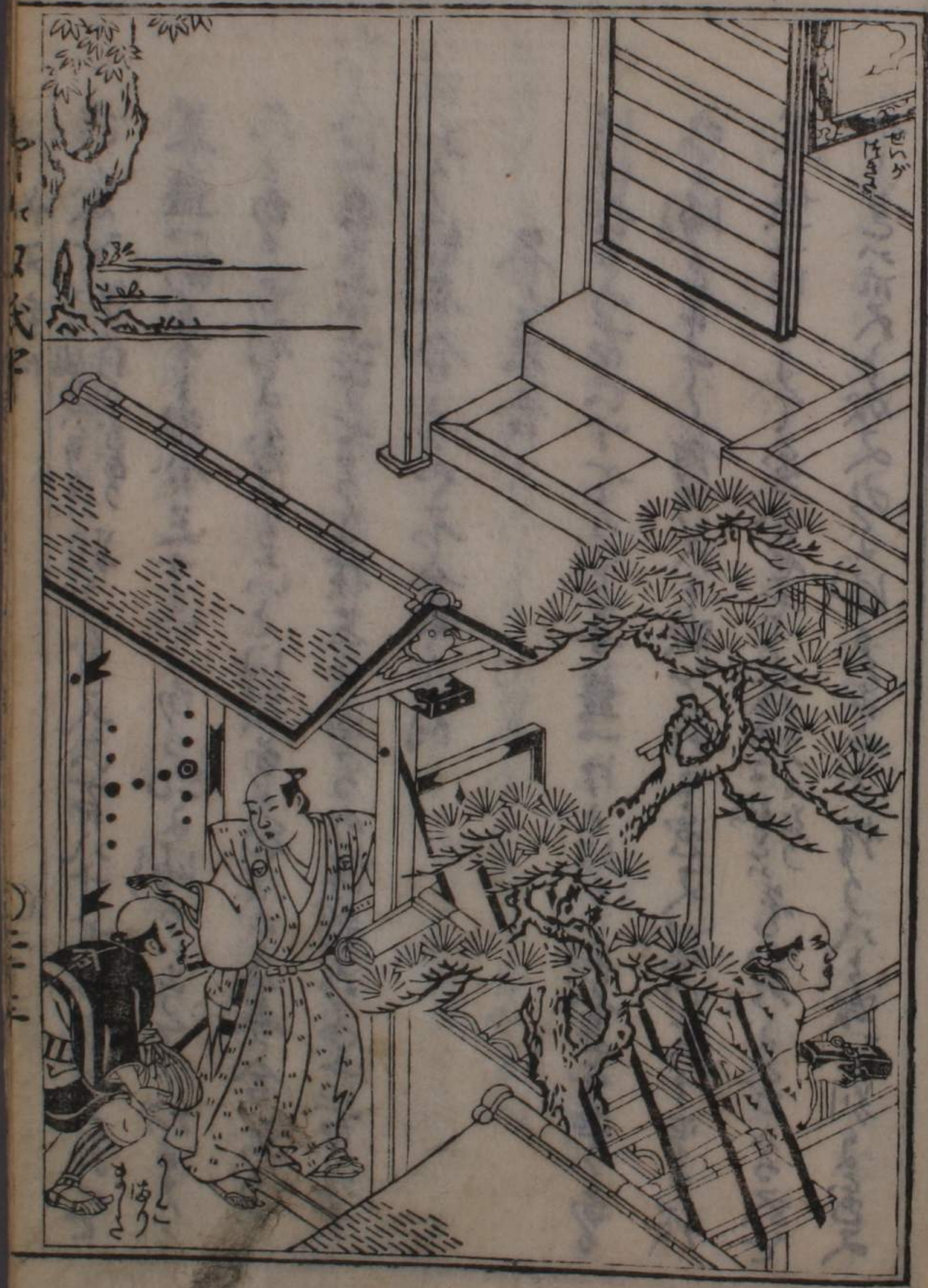
法曰たの惣指目より重みあり九なり九なりと
位より不拘算盤一けりてふを時三十七と成九は倍ら
せりて作りてつとたはは又七なりより重みと算盤一

けりてふを時十九とあり九は倍らば作りてと成は
たははとてつととい教あり故より算合ありとい教は
ありとつとつとつと合て未是とい

たはは合七百八拾のあははは合は付八斗七升の合の
末六百八拾七斗七升の算合はるや合はると同

答云合

法曰合するの七百八拾のあははは算盤一けりて少くは合ははと
あり九は倍らば作りてつとたはは又二の倍八斗
七升の合は算盤一けりて合ははと十と成九は倍ら
ば作りてつとつとつと合ははと合ははと合ははと



神代文部

〇三十四

九は満るすくく竹う七とある是は別は...
十四と...と竹うの...と算盤...
板九は満る...と竹う四とある是は...
ありぬよと算合あり

たとへば積一万八千七百六十九すと...
は算合するや不合やと向

以答云合

法曰積一万八千七百六十九すと算盤...
あり九は満る...と竹う四とある...
七千と算盤...と算合せ...
九は満るすくく

竹う...あり...
又九は満る...
あり

た...あり...
又九は満る...
あり

右合香の法は...
又九は満る...
あり

又九は満る...
あり

あり

廿三 八たあ...の事 六ヶ條

鯨尺と曲尺...
八分...
割...

曲尺と鯨尺...
八分...
割...

長振尺と曲尺...
二分...
割...

又三分...
割...

神代文部

〇三十五

海防新編

三十五

曲人を呉服人より多くするは一ヶ二ぶまで割ひきりあり

又三分一割四又割と曰り

呉服人と鯨人より多くするは九分六厘をかくればきり

又三とけ四分とけ八分をかくると曰り

鯨人を呉服人より多くするは九分六厘一割ひきり也

又三と割四分一割八分一割と曰り

大人をくくしの法は女と裁物あはれ用ひる事あれはきり

かきくんとを欲て術と二極まるその

(廿三) 女子二平方乃事 二ヶ條

たとひ積二十五寸と平方よりかくくと此積と曰

答云ぬ寸

法曰積をきりて内一寸りて高一寸と一次にきりて高

二寸と一次にきりて高三寸と一次にきりて高四寸

と一次にきりて高五寸と一次にきりて積は九寸と一次に

高五寸と一次にきりて

たとひ積十一寸と平方よりかくくと此積と曰

答云三寸二分一厘六毫余

法曰積をきりて内一寸りて高一寸と一次にきりて高

二寸と一次にきりて高三寸と一次にきりて高四寸

と一次にきりて高五寸と一次にきりて積は九寸六分一厘と

ト

海防新編

三十五

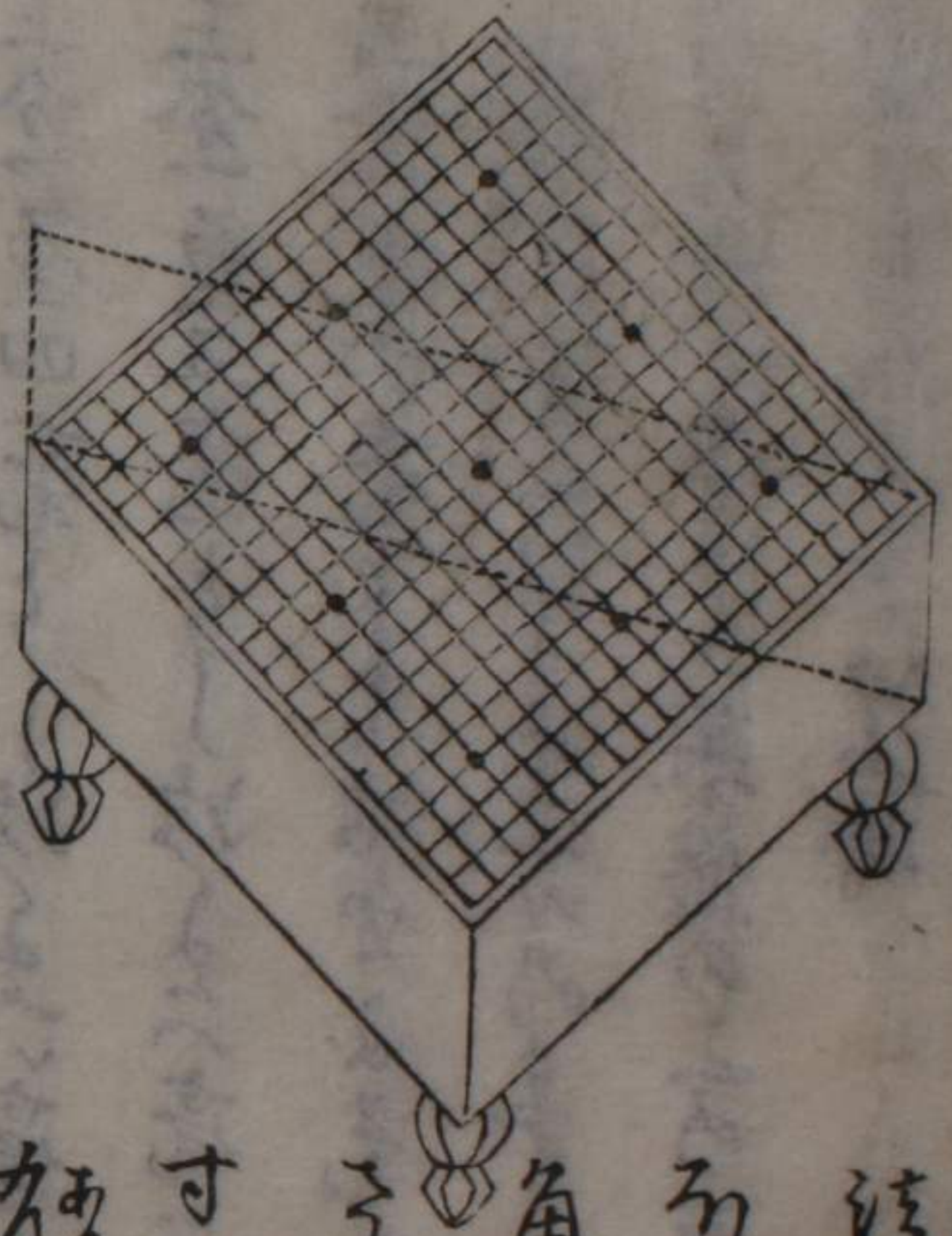
は内高の三寸とけ合せたり九寸と引抄六分三厘とよりの
 ごとく抄り後の内寸にして高三寸五分と次よ六分三厘と
 引て高三寸二分と次よ六分三厘と引て高三寸三分と
 次よ六分三厘と引て高の三寸二分と一厘加へてこれ次
 次よ六分三厘とけ合せたり寸。九分五厘六毫一絲と引て内高の
 三寸三分とけ合せたり寸。八分九厘と引抄六厘六毫一絲と
 又前のごとく抄り後の内寸にして高三寸三分一厘と次よ
 六厘六毫三絲ひけぬ中よ高の三寸二分一厘と一毫加へて是を
 次よ六分三厘とけ合せたり寸。九分一厘二毫七絲二忽一微と引
 引て高の三寸二分一厘と引合合せたり寸。九分五厘六毫一絲と

引抄三寸二分一厘と引合合せたり寸。九分五厘六毫一絲と
 高三寸二分一厘二毫と次よ六毫六絲二忽三微と引て高
 三寸二分一厘二毫と次よ六毫六絲二忽八微と引て高三寸
 三分一厘二毫と次よ六毫六絲二忽七微と引て高三寸
 三分一厘四毫と次よ六毫六絲二忽九微と引て高三寸
 三分一厘五毫と次よ六毫六絲三忽一微と引て高三寸
 三分一厘六毫と次よ六毫六絲三忽二微と引て高の三寸

九四 けぎたし一平二方乃事

たといはのきのごとく、基盤の上のたの角より下のたの角へ乃
 ちとてさうたさといふ時

此の如く
作らば
其の
法は
此の
如し



法曰方のボトクを盤の面を
 りてよくしうら残きてその
 角よりおえんの面をぞりすと
 うしてきりあう何よりおぢま
 寸のあしきりりのけしう
 ぢま

九五 曲尺平方の事 三ヶ條

たとへ積十六寸と平方は用く時何程と同

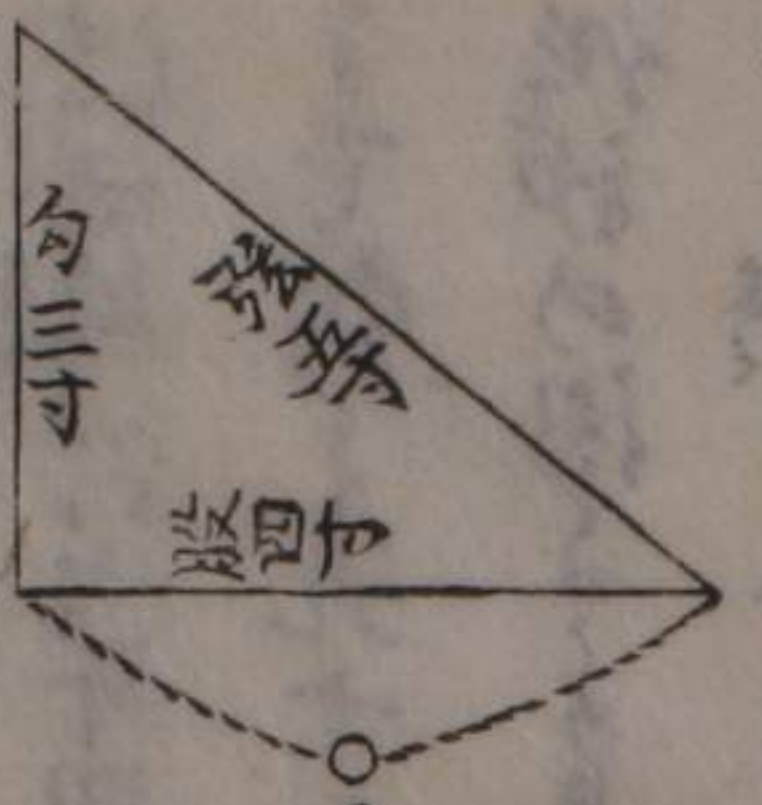
答云四寸

法曰積十六寸と平方は用く時何程と同

累のしとたのみ寸と弦と定めたる二寸と勾と定めし

を股の寸とすうて答ふ也

ひすきうて答ふ也



たとへ積十六寸と平方は用く時何程と同

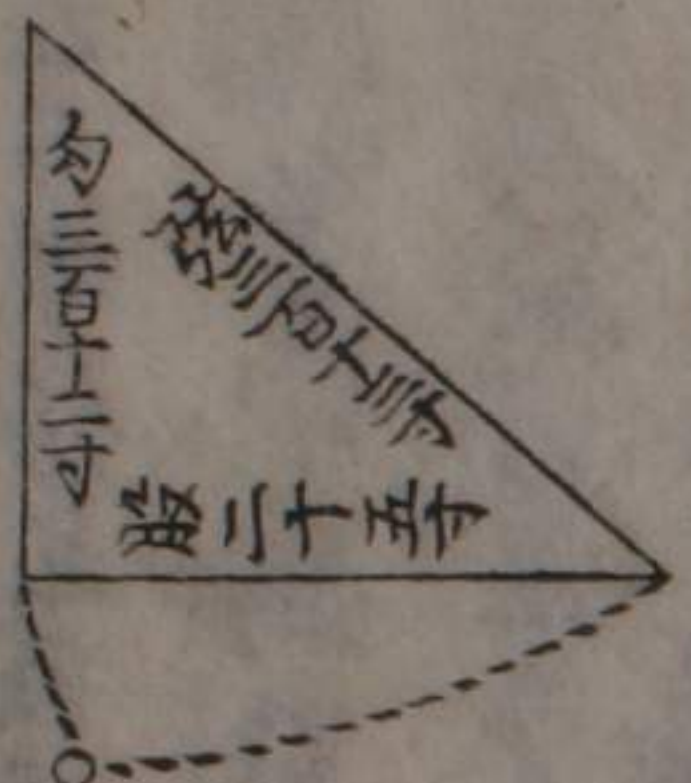
答云廿五寸

法曰積十六寸と平方は用く時何程と同

二つは割て累のしとたのみ寸と定めし

をの勾と定むる也

ひすきうて答ふ也



勾三百二十寸

三寸

